

第24回 市民まちづくり連続講座 in 明石

JR新幹線車両基地の建設計画はどうなった？

24回目を迎える8月の「市民まちづくり講座」は、昨年11月に突如浮上したJR大久保～魚住駅間の農地に計画された「新幹線車両基地の建設計画」を取り上げます。8月29日(土)午後1時30分から、明石駅前のアスピア明石8階の市民活動支援センターです。

車両基地が計画された地域は、明石市の貴重な「農業振興地域」である市街化調整区域。リニア新幹線が大阪に延伸された際に山陽新幹線の需要が膨らむという見通しに基づく長期的な計画で、JRの具体的な計画案を明示しないまま、市とJRの協議が進められていることに、議会からも明確な計画を提示すべきだという声が挙がっています。

この3月末にはJR側が具体案を示すとしていましたが、その矢先に新型コロナウイルス感染症の拡大が進み、鉄道輸送に甚大な影響が出ているほかリニア新幹線の建設の大幅遅れなどが表面化したことから、計画案の提示が無期先延ばしになっています。

新幹線車両基地とは、そもそもどのようなものか？なぜ、明石への建設が計画されたのか？基地ができると、まちと地域にどのような影響があるのか？コロナ後の経済情勢の急転悪化の中で、計画はなお進むのか？一などについて、この問題に詳しい石井勝幸さんに話をしていただき、意見交換します。

大規模な迷惑施設の建設が、明石の将来に及ぼす影響をしっかりとつかみましよう。

第24回 市民まちづくり連続講座 in 明石

日時 2020年8月29日(土)午後1時30分～4時30分

会場 ウィズあかし8階 市民活動支援センター・フリースペース(アスピア明石8階)

テーマ JR新幹線車両基地の建設計画はどうなった？

講師 石井勝幸さん(元JR西日本勤務、元国鉄労働組合、明石市在住)

※資料代300円。事前申し込みは不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

コロナでJRの経営環境激変、3月の計画案提示は無期？延期

新幹線車両基地計画は、大久保町と魚住町にまたがる新幹線とJR在来線の間広がる優良農地(市街化調整区域)の大半を開発し、東西約2キロに新幹線用に20線程度、在来線用に10線程度の車両基地を建設するものです。市はさらに周辺を住宅地や商業地として全体では最大100ヘクタールを超す規模の開発をしようとするものです。

市は2018年7月からJR西日本側と毎月のように極秘裏に協議を重ねてきましたが、市民にはもちろん市議会にもこの間全く説明することなく、昨年11月15日付けの神戸新聞で大きく報道されて明るみに出ました。泉市長も昨年5月以降3回にわたって協議に加わり、9月にはJR西日本社長とも市役所で面談し「市民の理解を得られるように進め、協力したい」と応じていました。

昨年12月と今年3月議会では大きな問題とされてさまざまに追及されましたが、市は「まだ具体的な計画を聞いていない。3月末にはJRが計画案を提示するとしている」と答弁していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大の中でJRは計画案の提示を期限を明らかにせず延期しました。

JRはコロナ感染症による輸送力需要の激減、リニア新幹線が静岡県の反対で目標とする2037年大阪延伸も大幅に伸びる状況が出てきたことも大きく影響しているとみられます。

市民まちづくり連続講座 in 明石 今後の講座開催計画

回	日時	テーマと内容	会場
特	9月26日(土)	トークサロン「草の根の市民自治を掘り起こそう」 (&総会)	ウィズあかし8階
25	10月31日(土)	SDGsって何? (新長期総合計画は先送りされたが…)	ウィズあかし8階
26	11月下旬予定	住民投票条例否決と「市民参画システム」の検証 (仮題)	ウィズあかし8階予定

市役所新庁舎 建設計画

設計業者選定し、超スピードで基本設計策定へ

明石市役所の新庁舎建設計画で市は7月16日、設計業者の公募型プロポーザル方式による設計業務委託業者を公表しました。今年3月議会で決定した基本計画に基づき4月27日に設計委託業者の募集を公表し、一次、二次審査を経て応募した4者から安井建築設計事務所を選定しました。選定したのは外部有識者4名と職員3名による選定委員会が審査したとしています。

同時に公表された設計概要案では、基本計画では11階の高層庁舎案だったのが、庁舎規模のスリム化や事業費抑制のために6階建ての低層庁舎案に変更され、海峡と周辺景観と調和するボリュームにしたのが特徴。建設コストを「10%縮減」とされているが、費用面については公表資料がないので不明。

今後のスケジュールは基本計画で提示されたように、来年3月までに基本設計を完了して実施設計を発注し、国の「市町村役場機能緊急保全事業」の適用期限に間に合わせる。そのためには、おそらく10月ぐらいまでには基本設計案を策定し、12月議事に提案するとともに、年末から来年1月にかけてパブリックコメントに付して、来年3月議会での承認をめざす。その後の市が考えるスケジュールは右表の通りです。

設計概要を見ると、一般的な地震対策や津波等による浸水対策は記載されているが、中心市街地全体が津波で浸水し、新庁舎が「陸の孤島」になる対策は明示されていません。

国の財政支援適用条件をクリアできるか？

市民からの設計への提案を受け入れる時間的余裕をつくるために

市が見込んでいる国の財政支援策の適用要件には「想定を超える災害でも、新庁舎で業務を継続できること」が明記されていますが、これをクリアする対策は見えません。適用要件を充足するには「陸の孤島化」を避ける対策が不可欠ですが、立地条件からは至難の業です。市民参画の手順を事実上省略し、さまざまな提案を検討する時間的余裕を奪う「国の財政支援ありき」の進め方にストップをかけるには、無理な財政支援への駆け込みスケジュールをあきらめさせるしかありません。

しかも「交付税措置」という支援メニューは、27億円の借金が余分に認められるだけで、後日国が補填するという方式は空手形になる可能性が多い制度です。「明石市政百年の計」として慎重に進めねばならない新庁舎建設を、正常な形で進めるように、あらためて市と議会に猛省を促していきましょう。



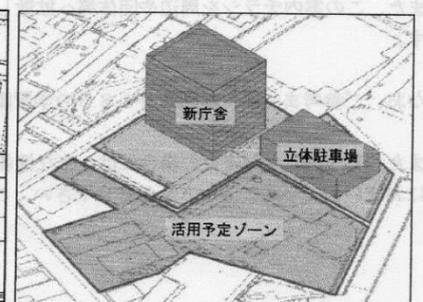
採用された基本設計概要のイメージ図 (安井建築設計事務所)

2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023~2025年度 (令和5~7年度)
設計者選定 市民参画	基本設計完了 実施設計着手	実施設計完了	建設工事・引越 工事完了 供用開始

<配置計画(ゾーニングイメージ)>



<建物ボリュームイメージ>



※ 市役所新庁舎建設基本計画から抜粋。建物の形状・階層等はイメージであり、今後の検討により決定していきます。